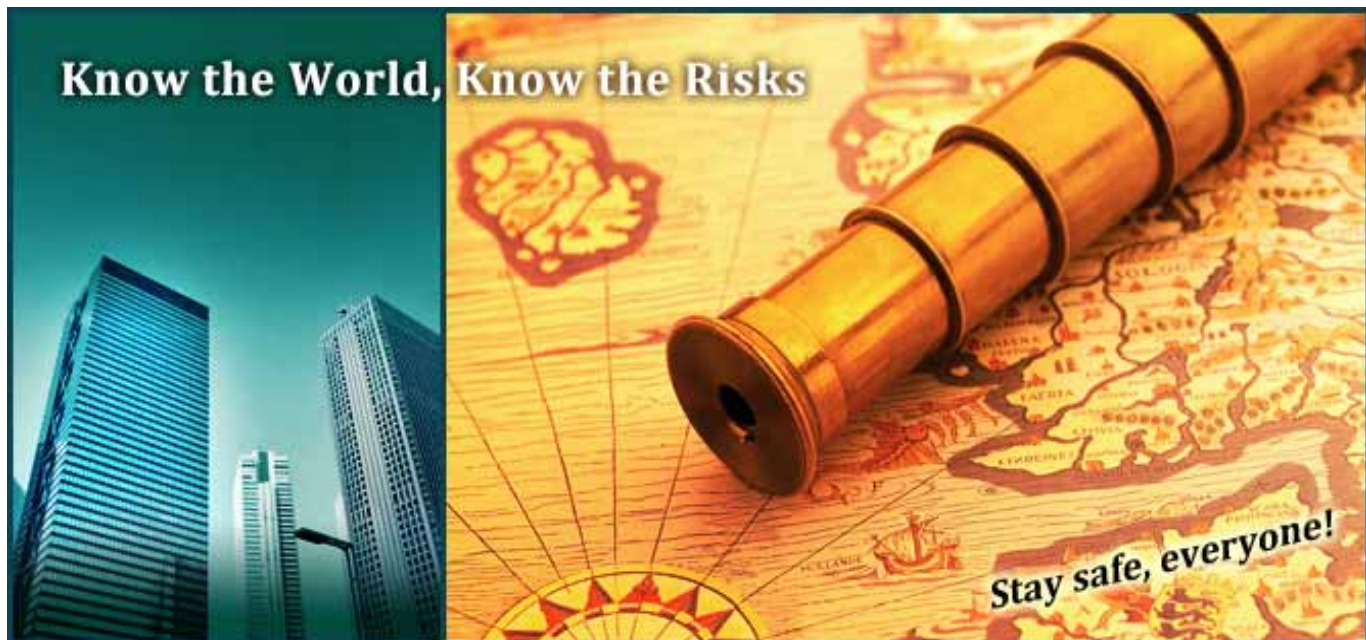


海外危機管理Letter

2012.12.21
Vol.305

お知らせ

■ 年末年始の配信について

本年の配信は今号 (Vol. 305) が最後となります。次号 (Vol. 306) は2013年1月11日 (金) に配信予定です。来年もよろしく願い申し上げます。

NKSJリスクマネジメント株式会社

HEADLINES

- 米国：パキスタン出身の米国籍兄弟2人がNY市におけるテロ計画で逮捕
- 中国：河南と北京で刃物による襲撃事件 28人負傷
- 米国：男子児童が護身用の拳銃を学校に持ち込む
- ナイジェリア：武装グループが南部で韓国人ら6人誘拐
- インドネシア：強毒性鳥インフル感染で新たな死者

今週のTOPIC

米国：パキスタン出身の米国籍兄弟2人がNY市におけるテロ計画で逮捕

米司法当局は18日、パキスタン出身の米国人の兄弟2人をテロ計画容疑で11月29日にフロリダ州で逮捕し、起訴したことを明らかにした。資金不足でテロは実行できなかったとしている。

弟(20)は11月23日、ニューヨークに滞在し、テロの標的となる場所の下見を行うと同時に、爆発物を製造する資金稼ぎのための仕事を探したが、資金が尽きたため、4日後にフロリダへ戻ったところを逮捕された。

兄(30)は弟に資金や携帯電話などを提供し、弟の計画を支援した疑いが持たれている。

米連邦捜査局(FBI)は、2人が2011年にパキスタンへ数回渡航したことから2011年7月に監視を開始。今回、兄弟が連絡を取り合った携帯電話の会話を盗聴し、テロ計画が判明したとされる。フロリダの自宅にあるパソコンから、弟が国際テロ組織アルカイダの雑誌やFBIのおとり捜査の資料などを閲覧した記録が見つかった。

ASIA

中国

● KFC納入の養鶏業者が過剰の抗生物質投与か

上海市食品薬品监督管理局は19日、米系ファストフードチェーン「ケンタッキー・フライド・チキン」に鶏肉を納入している山東省の養鶏業者の鶏肉に、アマンタジンやリバビリンなどの抗生物質が混入しているとの報道を受けて、同業者の鶏肉のサンプル検査を行っていることを明らかにした。検査結果は早ければ20日にも出る。

中国では、鶏肉出荷前の1週間は抗生物質を与えることを禁止しているが、混み合った養鶏場では2日間抗生物質を与えないと鶏が死ぬこともあり、鶏の生存を維持するために、抗生物質を過剰に与えていると報じられている。

● 世界終末説を流布したカルト集団101人を逮捕

17日付の現地メディアによると、公安当局は国内各地で「人類滅亡」や「世界終末」を唱える宗教団体「全能の神」に所属する計101人を逮捕した。

フィリピン

● 西ネグロス州で軍とNPAが激しい銃撃戦

フィリピン中部ネグロス・オキシデンタル州(西ネグロス州)の町イサベラで13日、軍と共産系反政府組織「新人民軍(NPA)」のメンバー約40人との間で激しい銃撃戦が発生した。軍は銃撃戦終了後、現場周辺にいたNPAのメンバーとみられる男19人の身柄を拘束した。

同州警察当局は17日、軍が拘束したメンバーのうち8人について、殺人・同未遂罪で起訴する方針を明らかにした。8人のうち、3人の手からは硝煙反応が検知され、5人は戦闘に参加した兵士の目撃証言でNPAゲリラであることが確認されたという。

残りの11人(うち2人は未成年者)は「戦闘に参加した形跡がない」として17日までに釈放された。

一方、フィリピン政府はNPA対し、16日から18日間、「クリスマス停戦」に入ることを宣言したが、NPA側からは例年のような政府側に呼応する停戦宣言は17日現在、出されていない。

● 貸金業者を狙った強盗殺人 カード50枚奪われる

フィリピンのマニラ首都圏ケソン市のJ.アキノ・クルス通りで18日深夜、首都圏近郊のブラカン州在住の貸金業者の男性(44歳)が2人組の強盗に銃撃され死亡した。

強盗は、被害者の男性が持っていた現金10万ペソ(約20万円)とキャッシュカード50枚、それに各カードの暗証番号のリストが入ったかばんを奪って逃走した。

ケソン市警察当局者によると、男性は同市内の銀行から現金を引き出し、バイクで現場を通りかかったところ、バイク1台に相乗りした2人組に行く手を阻まれたものとみられている。男性がかばんを奪われまいと抵抗したため、犯人の1人に銃撃されたという。男性は仕事関係で多数の人に金を貸しており、複数の債務者からキャッ

逮捕された信者は青海省西寧市で37人、内モンゴル自治区で4人、福建省泉州市普江市で34人、陝西省で7人、四川省で2人、重慶市で4人、湖北省で5人、江蘇省で8人。当局は多数の旗、ディスク類、標語、書籍、印刷機を押収した。

● 河南と北京で刃物による襲撃事件 28人負傷

河南省信陽市の小学校近くの住宅に14日朝、男(36)が押し入り、その家にあった刃物で85歳の女性の頭を切りつけた。その後、男は午前7時40分頃、小学校の校門前で、登校してきた7歳から8歳の小学生を刃物で切り付け、22人の児童が頭部などを負傷した。耳や指を切られた児童もいる。児童1人と85歳の女性は重傷だが、命に別条はないという。男は校門で警備員に取り押さえられ、警察に逮捕された。男は精神に異常があるとみられる。

一方、北京警察が14日明らかにしたところによると、9日以降、同市の地下鉄で、カッターナイフで女性少なくとも5人を切り付けた男(25)を13日、逮捕した。警察によると、男は社会に復しゅうしたかったと供述している。

ユカードと暗証番号を預かったうえで、定期的に返済額をATM(現金自動預払機)から自ら引き出していた。

警察は、被害者の関係者が今回の事件に関係している可能性があるとして、債務者などから事情聴取している。

● 特殊部隊がテロ容疑で外国人を射殺

南部ミンダナオ島にある第3の都市ダバオ市で14日夜、爆弾テロを実行するために市街地に潜伏していたとされるマレーシア人の男が同市警察の特殊部隊(SWAT)に射殺された。男と行動を共にしていた華人系フィリピン人の妻も逮捕された。

警察は男が持っていたバッグの中から爆弾を発見、押収した。男はマレーシア・クダ州出身で、東南アジアの広域テロ組織「ジェマー・イスラミア(JI)」のメンバーとみられる。

警察は事前に同市内でのテロ計画に関する極秘情報入手し、テロリストの潜伏先を捜査。同日になって男が妻とともに宿泊していたホテルを突き止めた。警察が2人の逮捕に踏み切ろうとしたところ、ホテルのロビーで男が起爆に使う携帯電話を握りしめ、警官隊と対峙したが、男が約3時間半後に近くの公園に逃走を図ったため、SWAT隊員が射殺した。

男は、フィリピンのキリスト教徒が16日からクリスマスイブの未明まで9日間にわたって行う「シンパンガビ(深夜ミサ)」を狙った爆弾テロを計画していた可能性が高い。警察は計画の詳細や背後関係を解明するために、逮捕した妻を取り調べている。

同市警察はこの爆弾テロ未遂事件を受けて、市街地のキリスト教会、ショッピングセンター、ホテルなどの要衝で検問を実施するなど警備を強化した。沿岸警備隊も同市内の港湾数ヶ所で新たなテロリストの潜入を阻止するために厳戒態勢を敷いている。

タイ

●野党幹部が襲われ頭がい骨骨折 政治的な動機か

タイ各紙の18日付け報道によると、首都バンコクのバンナー区内で17日夜、最大野党「民主党」のラメート次席スポークスマンが自宅のマンションの前でバイク1台に相乗りした2人組の男に襲撃され、頭がい骨を複雑骨折する重傷を負った。硬質の凶器で頭部を何度も殴打されたという。同氏が収容された病院の医師によると、同氏は重傷を負ったが、生命の危機は脱したもよう。

同氏は民主党の法務委員も兼任しており、政権与党のタクシン元首相派幹部たちを様々な違法行為の疑いで告発していた。最近では知人らに「後を付けられているようだ」と語り、身辺の警戒を強めていたところだったという。

と語り、身辺の警戒を強めていたところだったという。

アピシット同党党首（前首相）は18日、「犯行は政治的な動機によるものだ」と主張したが、首都圏警察（MPB）では個人的な怨恨などを視野に捜査を進める方針という。

ラメート氏は、カムロンウィット現MPB本部長が刑事事件で有罪判決を受けているタクシン元首相（海外逃亡中）と香港で会見したことを問題視。現職警察官僚による背任行為に当たるとして同本部長を国家オンブズマン事務局に告発していた。そのため、ラメート氏は警察出身のタクシン氏の影響力が強い警察組織の「敵」とみなされてきた。地元メディアでは、MPBの捜査当局が今回の事件の犯人捜査に積極的に取り組まない可能性がある、との論評が出ている。

インド

●ニューデリー バス内で女子学生が集団レイプされる

ニューデリーのバスで16日夜、23歳の女子学生が犯罪グループに集団でレイプされる事件が発生した。犯人らは女子学生と、その際一緒にいた友人の男性を激しく殴打し、裸の状態バスの外に放り出したとされる。

2人は病院に搬送されたが、女子学生は重体とされる。

警察当局はバスの運転手も事件に関与した疑いがあると見て逮捕した。

ニューデリーでは昨年約550件のレイプ事件が発生している。このほか、セクハラ、女性の誘拐などが頻発しており、女性にとって危険な都市となっている。

AMERICAS

米国

●各地で発砲事件 30人死亡

米国各地で14日から15日にかけて、銃の発砲事件が相次ぎ、多数の死傷者が出た。

コネティカット州ニュータウンの小学校では14日朝、男（20）が校内に乱入して児童らに向けて銃を乱射し、6～7歳の1年生20人と大人6人が死亡した。容疑者の男も、校舎内で自殺した。男の自宅では、母親が銃撃されて死亡しているのが発見されており、男の犯行とみられている。犯行動機は不明。

一方、ネバダ州ラスベガスのExcaliburホテルのロビーでは14日、男がホテルのコンシェルジュの女性を銃で撃って殺害し、自らも銃で自殺した。

また、カリフォルニア州ニューポートビーチの衣料品のショッピングモールの駐車場では15日、男（42）が50発の銃弾を発射する事件が発生、買い物客が更衣室に逃げ込むなどした。死傷者は出なかった。男はその後、警察に逮捕された。

さらに、アラバマ州バーミンガムの東郊オックスフォードでは16日、家庭内の争いで3人を射殺した男（33）を、警察がカーチェイスの末に射殺した。

●テキサスとカンザスで発砲事件 警官2人死亡

テキサス州サンアントニオの映画館で16日夜、発砲事件が発生し、銃弾を受けた男性1人が負傷した。犯人はまず、同映画館の駐車場で発砲し、男性1人に負傷を負わせ、その後、映画館内で発砲した。男は駆け付けた警察官に撃たれ、病院に搬送された。男は映画館に向かう前にレストラン内でも発砲したとされる。

一方、カンザス州トピカの食料品店前で16日、不審な車に関する通報を受けて駆け付けた警察官2人が、到着直後に銃撃を受けて死亡した。

●男子児童が護身用の拳銃を学校に持ち込む

ユタ州ソルトレイクシティの公立小学校で19日、男子児童（11）が拳銃を持ち込み、休み時間に校庭で同級生3人に銃口を向けて脅したとして警察に身柄を拘束された。拳銃には銃弾は装てんされていなかったが、同児童のカバンの中には銃弾が入っていた。

児童は警察の調べに対し、東部コネティカット州の小学校で起きた銃乱射事件を受け、自分と級友の身を同様の事件から守るために持ち込んだと話している。児童の両親によると、持ち込んだ拳銃は、遊びに来ていた親戚が家に置き忘れたものだった。

ホワイトハウスは19日、銃規制に関する新たな対応策を立てていることを明らかにしている。

●国務省「アルカイダは著しく弱体化」

米国務省のベンジャミン・テロ対策調整官は18日、国際テロ組織アルカイダの最近の活動状況について、勢力が著しく弱体化したとの見方を示した。米国のシンクタンクで演説し、明らかにした。調整官によると、パキスタンやアフガニスタンで活動するアルカイダの上級幹部30人のうち20人以上を殺害、または逮捕したことにより、弱体化したとしている。

アルカイダは、オバマ氏が大統領に就任した2009年1月ごろは、パキスタン北西部の連邦直轄部族地域（FATA）に深く根付き、大規模テロを敢行する能力を備えていた非常に危険な存在だったが、一連の取り締まりで弱体化した。

また、アルカイダ系組織の中で最も危険な組織とみられていた「アラビア半島のアルカイダ（AQAP）」も、今年に入ってからのイエメン当局による取り締まりで、勢力が減退したとされる。ソマリアの「アルシャブ（AS）」は、幹部らの意見対立により内部分裂して、弱体化したという。

米国・メキシコ

●メキシコの麻薬組織が圧縮空気砲で密輸

米国当局が12日、明らかにしたところによると、メキシコの麻薬密輸グループが先週、米国との国境沿いで、圧縮空気砲を発射して重さ38.5キロのマリファナ(末端価格4万2,000ドル(約350万円))入りの缶を国境の壁を越えて、米国側のアリゾナ州のサンルイに落下させた。缶は約152メートル飛んだとされる。

しかし、米国側の犯罪者の仲間が缶を拾い上げる前に、米国境警備隊が発見したため、マリファナ密輸計画は失敗した。

これまでに犯罪組織がカタパルト(投石機)を使用して麻薬を国境越えに投げ込んだケースはあったが、圧縮空気砲を使った手口は初めてとされている。

メキシコ

●新大統領が麻薬組織対策に新たな組織

メキシコのペニャニエト新大統領は17日、議会で、犯罪の取り締まり強化と麻薬組織対策の一環として、新たな警察部隊を編成する計画を明らかにした。

この部隊は、スペインの国家憲兵(Guardia Civil)をモデルとしたもので、初期段階では1万人強の隊員で構成され、やがては4万人規模にするという。一方で、隊員の募集と訓練に関する詳しい情報は明らかにされなかった。新部隊の隊員が十分に訓練されるまでは、軍がパトロールに当たるとしている。

前カルデロン政権が麻薬組織の取り締まりに軍を動員した2006年以降、約6万人が事件に巻き込まれて死亡しており、かえって治安が悪化したとの指摘がある。

ベネズエラ

●チャベス大統領 術後の容体は安定

ビジェガス通信相は18日、チャベス大統領が手術後に発症した呼吸器系の感染症から回復し、容体は安定しているが、しばらくは安静にする必要があることを明らかにした。

感染症は複雑な手術を受けた患者の術後によくみられる症状だという。

キューバの医療チームは、大統領の現在の身体機能を悪化させないため、今後数日間は完全な安静と指示通りの治療を厳密に行うことを求めているという。

ブラジル

●リオのスラム街で銃撃戦 5人死亡

16日付の一部報道によると、リオデジャネイロ近郊のスラム街で15日朝、治安部隊と犯罪組織との間で銃撃戦があり、犯罪組織メンバー5人が死亡、1人が負傷した。女3人と男1人の計4人が逮捕された。

治安部隊は、同地区の住民から情報を得て、犯罪組織の拠点とされる建物を急襲し、銃撃戦となった。

治安部隊は現場からコカインの原料12キロとコカイン入りの袋2,500個のほか、拳銃2丁、散弾銃1丁、機関銃2丁を押収した。

AFRICA

エジプト

●新憲法案めぐる国民投票時の違法行為調査へ

エジプトのメッキ法相は18日、15日に行われた第1回目の新憲法案の是非を問う国民投票で指摘されている違法行為疑惑について、調査を担当する判事を任命した。

また、一部の投票所で、投票の監督を裁判官ではなく、

裁判所の事務官が行っていた点についても調査を命じた。

一方、反政府グループは18日、イスラム色の濃い新憲法案に対する抗議行動を全土で行うよう呼び掛け、15日の国民投票での違法行為を糾弾した。

こうした中、アレキサンドリアのモスクで反政府宗教指導者が新憲法案を批判する演説を行った後、その支持グループとムルシ大統領支持派との間で衝突が発生した。

ナイジェリア

●インド人船員6人誘拐が誘拐される

南部の産油地ニジェールデルタ地域の沖合い約60キロの海域で17日、ベルギー企業が運航する石油タンカーが海賊に襲撃され、金品を強奪された後、インド人乗組員6人が連れ去られた。同社が19日に明らかにした。

タンカーは、誘拐されなかった残りの乗組員によりラゴス港に到着した。

ニジェールデルタ沖では、海賊や武装グループによる誘拐や強盗が増加傾向にあり、17日には韓国重工業企業の社員6人が誘拐される事件が発生している。

●武装グループが南部で韓国人ら6人誘拐

南部の産油地ニジェールデルタ地域のバイエルサ州で17日、韓国の現代重工業に勤務する韓国人社員4人と、ナイジェリア人従業員2人の計6人が武装グループに誘拐された。州警察と韓国外務省が明らかにした。

6人はボートで現場に向かう途中、高速ボート2台に分乗した武装グループに襲撃され、連れ去られた。ナイジェリア人のうちの1人が解放されたとする情報があるが、確認されていない。

韓国外務省によると、これまでのところ犯行グループからの接触はない。

MIDDLE EAST

シリア

●西部の港湾都市でイタリア人技術者誘拐される

シリア西部タルトゥスで17日、ラタキアの鉄鋼会社に勤務するイタリア人技術者1人を含む計3人が何者かに誘拐される事件が発生した。イタリア外務省が明らかにした。

人質救出を最優先とするため、事件の詳細については明らかにしていない。

イタリアのテルツィ外相は、誘拐されたイタリア人の解放のためにシリアの関係機関の協力を得ているとしている。残り2人の国籍などについては現段階では不明。

●誘拐されていた米TV局の取材班 5日ぶりに脱出

米国NBCテレビは18日、内戦下のシリアで取材に当たっていたNBCのリチャード・エンゲル記者(39)ら取材チーム3人が親アサド大統領派の民兵グループ「シャビーハ」に5日間拘束されていたが、無事トルコ側へ自力で脱出したことを明らかにした。

NBCによると、3人は目隠しをされ、両手を縛られた状態で、肉体的な危害は加えられなかったものの、武装グループに「誰を最初に殺すか決めろ」と脅され続けたという。

武装グループが17日夕、3人を車両で別の場所へ移動する際、通過した検問所で反アサド派グループと銃撃戦となり、武装グループ2人が殺害された。3人は隙を見計らって18日朝、トルコ側へ脱出したとされる。

NBCのエンゲル記者によると、武装グループは、人質3人と、反アサド派に拘束されている仲間のイラン人4人とレバノン人2人との人質交換を計画していたとされる。

INFLUENZA

インドネシア

●強毒性鳥インフル感染で新たな死者

インドネシア保健省は18日、新たに1人が高病原性鳥インフルエンザウイルスH5N1型に感染し、死亡したことを明らかにした。今年に入り10人目の感染死亡例となった。

感染したのは、西ジャワ州ボゴール在住の4歳の

男児で、11月30日に発熱などの発症を発現し、12月6日にジャカルタ郊外のタンゲランにある病院に入院したが、その日のうちに死亡した。感染原因は、自宅でウイルスに感染した家禽に接触したためとみられる。

世界保健機関(WHO)の統計によると、2003年以降、インドネシアにおける今年18日までの感染者は192人で、うち死亡者の累計は160人。

■渡航情報

【外務省発出渡航情報】

「渡航情報」には、渡航、滞在にあたって特に注意が必要な場合に発出される情報で、治安情勢や安全対策の目安を示す「危険情報」、限定された期間、場所、事項について速報的に発出される「スポット情報」、複数の国や地域にまたがる範囲に発出される「広域情報」があります。各情報の詳細は以下のとおりです。

・外務省海外安全ホームページ：
<http://www.anzen.mofa.go.jp/>

(各国機関リンク)
・米国内務省：
http://travel.state.gov/travel/cis_pa_tw/tw/tw_1764.html

・英国外務省：
<http://www.fco.gov.uk/>

◆日本外務省:12月21日発出渡航情報(最新情報7日分)◆

■危険情報:チャド

■スポット情報:ナイジェリア(南部における誘拐事件の発生に伴う注意喚起)、中央アフリカ(反政府勢力侵攻に伴う治安情勢に関する注意喚起)、イラク(バグダッドを含むイラク各地における爆弾テロ等の発生に伴う注意喚起)、イラク(イスラム教シーア派行事アルバイーンに伴う注意喚起)、アフガニスタン(治安情勢)、エジプト(新憲法草案に対する国民投票実施に伴う治安情勢に関する注意喚起)

◆米国内務省、英・豪・加国外務省:12月21日発出渡航情報(7日分)◆

■ブルキナファソ:「渡航の是非を検討」及び地域により「渡航の延期をお勧め」(豪) ■アゼルバイジャン、エクアドル:地域により「渡航の延期をお勧め」(豪) ■ウズベキスタン:地域により「渡航の是非を検討」(英) ■中央アフリカ、スーダン:地域により「渡航の是非を検討」及び「渡航の延期をお勧め」(英) ■スーダン、ケニア、ナイジェリア:地域により「渡航の是非を検討」及び「渡航の延期をお勧め」(豪) ■マレーシア:地域により「渡航の是非を検討」(豪) ■南スーダン、ブルキナファソ、日本、エクアドル:地域により「渡航の延期をお勧め」(英) ■マリ:全土「渡航の延期をお勧め」(英) ■マリ、ソマリア、リビア:「渡航の延期をお勧め」(豪) ■パキスタン、ロシア:地域により「渡航の延期をお勧め」及び「渡航の是非を検討」(英) ■ギニア:「渡航の是非を検討」(加) ■エクアドル、フィリピン、バングラデシュ、タイ、カンボジア、グルジア、アゼルバイジャン、ロシア:地域により「渡航の延期をお勧め」(加) ■メキシコ、ハイチ、インドネシア、リベリア、チャド、セネガル、ジブチ、ザンビア、中央アフリカ、コンゴ共和国、コートジボワール、カメルーン、ウガンダ、アンゴラ、ウズベキスタン、トルコ:地域により「渡航の是非を検討」(加) ■コンゴ民主共和国、リビア、ミャンマー、インド、ルワンダ、ナイジェリア、ギニアビサウ、エリトリア、エチオピア、タジキスタン、パキスタン、イラク、イスラエル:地域により「渡航の是非を検討」及び「渡航の延期をお勧め」(加) ■ソマリア、スーダン、イラン、イエメン、アフガニスタン:「渡航の延期をお勧め」(加)



今週のコメント

2012年の世界の治安回顧と2013年の治安展望（主要国別）

2012年の世界主要国の治安を振り返り、来年の治安の展望を端的に占って見たが、政治・経済問題が治安に影響する国が多い。したがって、政治・経済の安定は、それぞれの国の政府がいかに効果的な治安対策に取り組むかにかかっている。

【中国】中国共産党総書記に習近平氏が就任し、党・政府幹部が来春までには一新される。尖閣諸島の領有権問題では、日本に対する強硬姿勢が継続されるであろう。そうした中、中国は、日中間の経済関係の停滞が自国にとってマイナスになることは重々承知しているはずであり、歩み寄りも期待される。しかし、中国在住の日本人に対する当局の監視活動が強化され、些細な問題でも拘束される事態が発生する可能性があることなどから、企業駐在員は引き続き慎重な行動が求められる。再び反日行動が組織される可能性もあり、来年は進出企業にとって正念場となる。その他、環境問題、食品問題、感染症問題、知的財産権保護などの様々なリスクが存在しているので、これらへのリスク対策も必須である。

【東南アジア】今後とも、日本企業の東南アジア（特に、インドネシア、タイ、マレーシア）へのシフトは変わらない。特に、ミャンマーに対する関心が高まっており、さらにベトナムへの進出が続き、カンボジア、ラオスにも関心が集まると予測される。治安問題では、フィリピンのモロ・イスラム解放戦線（MILF）との和平交渉が継続されるが、共産ゲリラ「NPA」による脅迫・襲撃事件は続くとも予測されるので、フィリピン進出の際は各種リスク対策が必須である。インドネシアでは、労働組合の全国組織化により、経営側は厳しい対応を強いられる可能性が高い。タイでは、タクシン系と反タクシン系の対立が再び激化する様相を呈している。さらに洪水などの災害対策を進めておく必要がある。

【南アジア】インドでは、日本企業の中国からのシフトが進むとみられるが、安全対策、労働組合対策が急務である。スリランカでは内戦が終わり、インフラ関連の業務・援助が増えることから、関心が高まっている。パキスタン、アフガニスタンの安定化には、まだ時間がかかる。パキスタンは、パキスタン・タリバンによるテロが続き、治安が一層悪化することが予想される。ネパールの政情は不安定化が続くとみられる。

【米国】オバマ大統領が11月に再選され、引き続き今後4年間、米国並びに世界をリードすることになった。また、世界の番人としては、アフガニスタンに駐留する米軍部隊が2014年末までに完全撤退するとしているが、実現には不透明感も根強い。来年さらに半永久的に、アルカイダなどイスラム過激派などによる米国へのテロ脅威は依然として続く。国内の犯罪情勢は減少もしくは横ばい状況が続いているが、夜間の徒歩外出は危険であり、特に都市部のダウンタウンの危険度はいまだに高い。

【メキシコ】12月1日、エンリケ・ペニャニエト新大統領（46歳）が就任した。新大統領は就任演説で、麻薬密輸組織の勢力拡大で、極度に悪化した治安回復を強調した。特に、メキシコシティでは、地区ごとに担当警察官を配置するなど犯罪対策を進めており、さらに青少年の犯罪防止に尽力する方針であるので、治安改善に期待する

ところであるが、急速な改善は困難との見方が強く、引き続き、安全対策を励行する必要がある。

【ベネズエラ】チャベス大統領の癌が悪化し、最悪のシナリオを描いておく必要がある。来年はチャベス後継の大統領選挙が実施される可能性があり、国内の混乱が想定される。また、カラカス首都圏における邦人の犯罪被害が頻発しており、治安の改善は期待できないので、引き続き行動範囲や時間を限定した活動が望まれる。【ブラジル】2014年のサッカーW杯、2016年のリオ・オリンピックに向けて、治安当局がリオやサンパウロなど大都市で治安対策に取り組んでいるが、特にリオのファベラ移転問題で、当局とファベラに根付く犯罪組織との対立が激化し、治安部隊と犯罪組織間での銃撃戦が頻発している。サンパウロでは大規模犯罪組織である首都第一コマンドの復活が取り沙汰されており、警察施設・警察官を狙った事件が多発している。

【中東】イスラエルはパレスチナ国家格上げに危機感を募らせており、パレスチナ・ハマスの武器支援を続けるイランへの反発は相当なものであり、イスラエルのイラン核施設攻撃には現実味がある。シリア内戦は来年には終止符が打たれ、アサド政権が崩壊するとの見方が根強い。トルコ、レバノンなどの周辺国は難民問題などで混乱する可能性がある。バーレーンの騒動もイランの介入が取り沙汰されている。

【北アフリカ】エジプトのムルシ大統領によるイスラム化の推進で、混乱が長期化する可能性が高い。リビアではカダフィ亡きあと、権力闘争、部族闘争などで政権の安定にはほど遠い。アルジェリアでは、AQIMのテロが落ち着けば、経済は活性化し、企業進出の穴場となるであろうが、AQIM掃討には時間がかかりそうである。

【アフリカ（北アフリカ以外）】ナイジェリアでは、ボコ・ハラムなどイスラム過激派がテロを継続し、ラゴスなどの都市部では凶悪犯罪が多発するなど、治安の改善は期待できない。ケニア（特にナイロビ）では、来年もソマリア・イスラム過激派アルシャバブによるテロに翻弄される。西アフリカ諸国では、かつて西アフリカの雄であったコートジボワールの復活が期待されるが、治安、インフラなどの問題が山積しているため、正常化にはまだまだ時間がかかりそうである。南アフリカの犯罪情勢は引き続き要注意であり、南スーダンの政情安定にはほど遠い。

【欧州】EU各国の経済安定には時間がかかり、特にギリシャは不安定な状態が続くなどユーロ圏の低迷が続く。経済の不安定は治安の悪化をもたらすことを認識しておくべきである。

【ロシア・中央アジア】日本企業のロシアへの市場拡大の期待は大きい。これもプーチン政権の出方次第である。プーチン政権は強硬策と柔軟策を使い分けるため、タイミングを逸すると、チャンスも失うことになる。国内では、反プーチン運動が拡大するなど、治安問題は当分続くものとみられる。カザフスタンなどの中央アジアでは今後、資源開発が進むにつれ、ロシア寄りか、欧米寄りかの色分けが鮮明化すると予想される。治安は悪化傾向にある。

【発行・編集】

NKSJリスクマネジメント株式会社 リスクコンサルティング事業本部 ERM部 企画グループ
〒160-0023
東京都新宿区西新宿1-24-1 エステック情報ビル27F
URL: <http://www.nksj-rm.co.jp> Tel: 03-3349-9316

【ご注意】

- 本情報配信についてのご意見、ご質問、配信先の変更、配信停止のご希望がございましたら右記までお問い合わせください。
- 特定地域の治安状況や感染症に関する情報をお知りになりたい方には、別途調査のうえ情報提供をいたします。
- なお本Letterは複製又はご登録企業様以外の第三者に再配信することは差し控えていただくようお願い致します。

【情報提供】

(株)オオコシセキュリティコンサルタンツ

■その他情報ソース

- ・各国外務省（日本、米国、英国）
- ・WHO、米疾病対策センター（CDC）
- ・（社）日本在外企業協会、その他サイト